

令和7年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
林産部門

長期経営受託による安定経営と地域の森林への貢献

○氏名又は名称 常陸太田市森林組合（代表 白石 甲子郎）

○所 在 地 茨城県常陸太田市

○出 品 財 経営（林業経営）

○受 賞 理 由

・地域の概要

常陸太田市は茨城県の北部に位置し、市域の66.9%が森林で、スギ・ヒノキ主体の人工林は民有林の56.5%を占める。このうち11齢級以上の林分が約80%を占め、利用期に達した森林資源が充実している。阿武隈山系に属する森林地帯は、比較的緩やかな地形で林業に適した地域であるが、小規模な森林所有者が多いことが林業の課題となっている。一方、市内にある宮の郷工業団地には大規模な木材関連施設が集積し県内随一の木材コンビナートとなっているほか、市内や隣接市町村には集成材工場、バイオマス発電施設などの需要先が多く立地している。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

同組合は施業の集約化を図るため、森林整備計画を提案することで森林所有者と長期間の森林整備受託の契約を推進している。私有林 1,897ha の森林管理受託と、令和6年からは市有林 574ha の長期的な施業受託に成功している。

森林整備事業では、長伐期多間伐施業を中心に進め、所有者の要望により皆伐・再造林も実施している。直近3年間の平均で再造林 51ha、下刈 241ha、間伐 94ha、皆伐 9ha の森林施業を実施し、黒字経営となっている。また、同組合は他の林業経営体の皆伐跡地であっても積極的に造林事業を受注し、再造林放棄地の発生を防ぐ努力をしている。

・受賞者の特色

市では4市町村が合併したこと等から、市有林が点在するとともに手入れ不足な人工林も存在していた。同組合は森林情報のデジタル化による市有林の台帳整備に協力するとともに、15年間の市有林施業計画を提案し、まず5年間の施業受託を契約した。市有林と周辺私有林の一括作業など、計画的な施業の集約化によってコストを削減し、森林所有者や市の山林所得の向上を実現するとともに、地域森林資源の利用と造成の担い手としての役割を拡大することで事業量を確保し、組合の経営基盤を強化した。

・普及性と今後の発展方向

森林経営管理制度の導入に伴い私有林の適切な管理における市町村の役割が大きくなったが、市町村における専門人材の不足などが課題となっている。同組合は、森林のデジタル情報を活用して林業に適した林地と適さない林地をゾーニングして森林管理計画を立案し、森林施業を実行する技術力を備えることで、地域森林資源整備・活用において中核的な役割を果たしている。森林所有者や市との長期的な施業受託は、同組合に対する信頼を示すものである。多くの森林組合が同組合のように、市町村森林整備計画の立案やその実行を支援する技術力を備え、地域森林資源活用の担い手となることが期待される。